

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **79**
November
2009



第14回 風花祭

大田原キャンパス

関連職種連携教育
海外研修

¥200

お祭り



第14回
風花祭
大田原キャンパス

10月17日(土)・18日(日)の2日間、大田原キャンパスにて大学祭「風花祭」が行われました。今年のテーマは「DISCOVERY ～新たなIUHWを～」。

学生もご来場いただいた方も、みなさんが新しい自分を見つけられるように！そんな願いがこめられた2日間でした。



ステージ 太陽の陽ざしをいっぱい浴びた屋間のライブステージから、幻想的な照明を受けた夜のダンスパフォーマンスまで、学生の熱気で一日中満たされていました。



屋内展示 サークルごとの演奏や発表・展示が行われ、学生も楽しく熱心に対応していました。

模擬店 おいしい食べ物はもちろん、看板や装飾にも工夫を凝らし、笑顔と元気でお客様に接していました。

オープンキャンパス 大学祭と同時に開催されたため、高校生以外の一般の方やお子さんの姿もあり、各学科の体験コーナーは大にぎわいでした。



実行委員長 ST2年 古川穂波

この「第14回風花祭」が多くのの人に楽しんでいただけたら、とても嬉しく思います。至らない点が多く、たくさんの方々にご迷惑をおかけしましたが、みなさんのご協力のおかげで無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

*風花祭の写真は写真部の協力をいただきました

北島学長ニュース

[2009年10月～11月]

□10月3日

『第14回長與又郎賞』を受賞

第68回日本癌学会学術総会にて、長年にわたり癌の臨床を目指した先端的な研究に取り組み、いち早くロボット工学を用いた手術技法の導入などに尽力した功績。

※長與又郎：1904年(明治37年)東京帝国大学医科大学(現在の東京大学医学部)卒業。ドイツのフライブルク大学留学後、東京帝国大学の病理学教授。夏目漱石の主治医。癌研究所や日本癌学会を設立し、癌の解明に努力。1941年、死の前日に医学への貢献により男爵となる。1996年、日本癌学会は長與又郎賞(長與賞)を設立。

□10月11日

米国外科学会名誉会員の称号を授与される

授与式は、シカゴで開催された米国外科学会(American College of Surgeons)年次大会初日に行われた。ACSは1913年に創設され、正会員(Fellow)76,000名を超える世界最大の外科系学会。名誉会員の称号は外科領域で特に功績のあった者に付与され、1913年、英国王立外科学会会長のSir Rickman Godleeが受賞して以来、今年の5名を含め418名に授与されている。日本ではわずか9名で、私立大学では北島学長のみ。

既に英国イングランド王立外科学会(Royal College of Surgeons of England)、ドイツ外科学会(German Surgical Society)の他、多くの学会より名誉会員の称号を贈られており、類い稀なる快挙である。

□11月6日

特別講演『新しい医学教育 低侵襲個別化がん治療とチーム医療』

日本記者クラブ会議室(日本プレスセンター10階)で行われた日本医学ジャーナリスト協会主催の定例会にて講演。参加者は医療ジャーナリストなど約50名。自身が医学を志すことになったきっかけや、時代を超えて内視鏡手術を予見していた福沢諭吉先生の話、産学連携による医療機器の進歩、実際の遠隔手術の様子などを紹介した。さらには、先日、大田原キャンパスで行われた「関連職種連携ワーク」での学生の発表内容にも触れ、「チーム医療」の重要性を訴えた。是非、本学の学生にも聞いてほしい内容だった。

CONTENTS

2 北島学長ニュース

3 第14回風花祭 大田原キャンパス



4 関連職種連携教育

6 海外研修

オーストラリア・ベトナム・中国・韓国/英語研修

9 小田原キャンパスレポート 第12回

10 福岡天神キャンパスレポート 第2回

11 大川キャンパスレポート 第17回

12 Topics & Columns

作業療法学科 林先生「国民の健康勲章」/言語聴覚学科「2年生総合演習」/看護学科「公開学習会」/看護学科「結ネットワーク計画 第3報」/視機能療法学科「教員研修会」/視機能療法学科「栃木県視能訓練士勉強会」/〈コラム〉私の主張 第13回「不思議な日本の若者達」(福岡看護学部 講師 永井あけみ)/医療福祉・マネジメント学科「イブニングタイム」/医療福祉・マネジメント学科 医療経営戦略セミナー/医療福祉・マネジメント学科 3年生実習報告会/〈コラム〉サークル紹介「第8回VIOLA」

16 施設インフォメーション

〈国際医療福祉大学病院〉栃木県防災館を訪問
 〈国際医療福祉大学塩谷病院〉救急車運用講習
 〈三田病院〉院内研修会・心肺蘇生訓練研修会
 〈熱海病院〉第41回熱海病院院内学術懇話会・第14回院内感染防止対策講習会
 〈山王病院〉山王メディカルセンター開設
 〈化研病院〉職員のスキルアップに向けて
 〈高木病院〉「ジャパン・マングラフィーサンデー」キャンペーン
 〈福岡山王病院〉健康講座と院内見学・カテーテルアブレーション100例達成

19 情緒障害児短期治療施設 起工式/大谷名誉顧問「ひかりの足跡」/〈コラム〉私のおすすめ本 第13回「34歳でがんはないよね?」(医療福祉学部学部長 丸木一成)

20 黒岩教授ご紹介/医療福祉チャンネル774/お知らせ IUHW Hot News



「関連職種連携論 連携ワーク」発表会

in OTAWARA Campus



10月24日（土）、「関連職種連携論連携ワーク」発表会が、大田原キャンパスで実施されました。これは、在学中にチーム医療を学ぶという、本学の特徴的な教育カリキュラム「関連職種連携論」の一環として行われるもので、二年生を主体とした904名の学生が82のグループに分かれ、グループ活動を通じてチーム医療・ケアの基礎となる連携技能の修得を目指します。



最優秀賞を受けた82班Aグループの発表



賞状を受ける時は、自然発生的に全員が学長と握手

冒頭、趣旨説明をする藤田教務委員長



審査結果の発表が終わり、笑顔に戻った11グループの代表者

本学の「関連職種連携教育（IPE: Inter-professional Education）」に「関連職種連携論（講義）」を開講したことに始まります。平成一五年には「関連職種連携実習」をカリキュラムに配置し、平成一八年度から本格的に実施しています。これは、病院や施設でチーム医療・ケアに関する臨床実習を受けるものです。ただし、まだ四年生全員が履修できる環境が整っていないことが今後の課題です。今回レポートした「関連職種連携論 連携ワーク」は、本年度から「関連職種連携論」の授業時間を拡大して実施する



ポスターセッションで学長の訪問を受ける

ことになったものです。これにより、本学のIPEは「関連職種連携論（講義）」、「関連職種連携論 連携ワーク」、「関連職種連携実習」へと体系化されました。近年、医療福祉分野では、それぞれの職種が高度化・専門化する一方、患者や利用者には全人的なサービスを提供することが求められています。このような環境変化の中では、医療職と福祉職が連携して現場でひとつづつ問題を解決していく能力が不可欠になります。本学は、医療福祉の総合大学として、



冒頭、趣旨説明をする藤田教務委員長

「**連**携ワーク」は六月から始まりました。この間、夏休みや大祭などを挟みながら、学生は時間を調整しながら協働する難しさも身をもって体験しました。このことを発表の中で「自分の時間を譲り合って」と表現したグループがあり印象的でした。午前の部は、開会宣言・趣旨説明のあと、八二のグループが二の班に分かれ、指定教室での「発表会」と那須アスリーナ体育館での「ポスターセッション」に移りました。「発表会」は、チューターの教員による進行のもと、各グループとも研究成果をパワーポイントにまとめ、五分間の口頭発表の後、質疑応答に入りました。「ポスターセッション」は、多くの学生にとって、おそらく初めて体験だったか



体育館でのポスターセッション

もしれません。ここでも、チューターの教員による指導を受けながら、各グループとも順番に二・三名の説明者を決め、訪れた学生や教員に対応していました。一方、残りのメンバーは積極的に他のグループのポスターを訪ねて意見を交わし、理解を深めるという態度は今後の課題になりそうです。これらの内容・説明を受けて、学生の班内投票により「班代表グループ」を決定する投票が行なわれ、午前の部を終了しました。午後の部は、引き続き「ポスターセッション」を行っている体育館の一角にコーナーを設け、各班から選ばれた代表グループによる「発表会」が一般公開されました。



質疑応答に参加する学長

こちらは質疑応答を含めて七分間の口頭発表です。審査員は、「関連職種連携実習」を履修した四年生から選ばれた学生審査員と、北島学長や教務委員の他、外部評価者として栃木県立黒磯高等学校の塩野谷英彦校長を加えた特別審査員の方々です。発表の時間が迫るにつれ、緊張を隠し切れない学生も見受けられましたが、さすがに各班から選ばれたグループだけに、どのグループも自信をもって歯切れの良い発表を行いました。審査の結果、敢闘賞（6）、学生賞（1）、学長賞（1）、優秀賞（2）が発表され、最後に最優秀賞（1）として、82班Aグループの「関連職種連携の現状と課題」が選ばれました。最後に、来賓の塩野谷英彦校長から全体の講評をいただき、閉会となりました。

様々な学部学科が横断的に連携して「学生のうちからチーム医療・ケア」を学ぶ最良の環境が整っています。他職種を目指す学生や教員と積極的に討議し、患者中心のチーム医療・ケアへの深い理解を身につけた学生が多く巣立っていくことが望まれます。

（東京事務所 広報室）

関連職種連携論「連携ワーク」発表会 代表グループ審査結果

賞	受賞した班	タイトル
最優秀賞	82班Aグループ	関連職種連携の現状と課題
優秀賞	34班Aグループ	職種間の壁を越えて～高齢かつ糖尿病併発の患者～
優秀賞	51班Aグループ	入院から在宅生活へ「自分らしく生きる」を支える連携
学長賞	62班Bグループ	パーキンソン病におけるチームアプローチ
学生賞	101班	脳梗塞患者に対するチームアプローチ
敢闘賞	14班	退院後のQOL向上に向けた支援
敢闘賞	22班Aグループ	脳外傷の大学生の在宅復帰への支援
敢闘賞	43班	医療・福祉の質向上を目指して
敢闘賞	74班Aグループ	発達障害児の就学支援
敢闘賞	93班Aグループ	学業復帰を目指した医療・保健・福祉
敢闘賞	111班	糖尿病管理が必要な高齢者



卒業研究「韓国研修」

保健医療学部放射線・情報科学科教員 山本智朗

韓国の放射線技師を養成する教育機関と大学病院の実情を研修するため、九月六日〜九日、卒業研究生九名と共に訪韓した。短期間のため予定がびっしりの研修だったが、インフルエンザの問題もなく無事に実施できた。研修を通じ、韓国の学生の強い向上心、医療水準の高さを体験できたと思う。参加学生から二名の感想を紹介する。

韓国研修を経験して

保健医療学部放射線・情報科学科四年 坂田裕実子

韓国ソウルにある高麗大学と延世大学セ

フランス病院へ研修に行った。初めて高麗大の学生や延世大セフランス病院の方々とお会いするときは、きちんと話せるだろうかととても緊張したが、実際に会うと、緊張している私たちを気遣い、色々話しかけてくださり、楽しくコミュニケーションすることが出来た。また、ある高麗大生は日本に興味を持って留学で日本語を勉強し、スラスラと日本語で会話をしてくれた。勿論英語も相当な実力であり、「興味を持ってそれを実行に移し、結果を伴わせる」ことを当たり前のようにこなしている韓国の学生、また、一日の平均外来数が約九千人という中で、焦ることなく確実に検査を行うセフランス病院の方々には尊敬の念を覚えると共に、私も負けていけないという良い刺激をこの韓国研修で受けることが出来た。

韓国研修に参加して

保健医療学部放射線・情報科学科四年 川口琴美

今回の韓国研修では、延世大学セフランス病院および高麗大学の見学をさせていただいた。研修の中で、特に文化の違いを感じたことがあった。例えば、日本ではCTやMRIなどの検査室には患者様が入りやすいドアと、スタッフが出入りするためのドアの二つが設けられているが、セフランス病院の検査室にはそのような区分けされたドアはなく、患者様もスタッフも同じドアから出入りしていた。患者様は待合室から装置の操作室に入り、そのまま検査室に入るの、スタッフの仕事ぶりは丸見えであった。日本では、患者様に操作室を見せないよ

うにするのが普通だが、このように文化の違いによって、検査室の構造も違ってくることに衝撃を受けた。また現地の学生との交流もあり、様々な良い刺激を沢山受け、四日間という短い研修だったが、大変貴重な体験となった。

English Camp

ブリティッシュヒルズでの英語研修

毎年、授業の一環として実施されている英語研修が九月の夏季休暇中に実施され、一年生三名が参加した。このプログラムは、日本国内でイギリスの文化や生活様式を体験し、実生活では英語を使う機会が少ない学生たちに、英語での生活を体験してもらうことを目的に実施されている。本学で行われる事前事後の授業、福島県のブリティッシュヒルズで実施される三泊四日の英語研修を含めると計六日間のプログラムである。

参加した理由は、英語学習を主な目的としながらも、単位が取れる、友達に参加するから、海外には行けないが国内なら安心、など様々である。ブリティッシュヒルズでは、異文化を体験するとともに、授業も全て英語で実施される。放射線・情報科学科の吉田昌弘さんは「ゲームなどを取り入れた授業を通して、英語でコミュニケーションを取ることに特別なことではなく、他学科からの参加学生とも打ち解けた」と話す。また、プログラムの最後にはその成果として参加学生、語学教育部の教員を前に全員がスピーチを行ったが、同学科のハンニントンさんは「夜中までスピーチ指導をし



てくれた先生方にありがとうございました」と本学引率教員への感謝の気持ちを述べた。薬学科の佐藤健太郎さんは、「英語力の向上だけでなく、先生方や大学の同志達と同じ時を過ごす事が出来たのが私にとって最高の財産」と語った。英語を通して友情の輪を広げ、深めるいい機会になったようである。このプログラムでの経験は、参加学生に少なからず変化をもたらしたようである。看護学科の橋本麻美さんは、今回のプログラムに参加して「英語に対する学習意欲が一層増した」と言う。また、放射線・情報科学科の黒川有紀さんは「今までは海外でも積極的にコミュニケーションを取ろうとはしなかったが、今度は自分から英語でコミュニケーションを取りたい」と意欲的だ。堂々と英語でスピーチをする参加者の姿からは、当初のよそよそしい不安そうな表情を思い出すのが難しいほどであった。このプログラムを通して参加者が得たもの大きさや物語っているように感じた。

(総合教育センター・語学教育部)

参加者と共に

「オープンキャンパス」開催

小田原保健医療学部では八月一日(土)・二日(日)・八日(土)・二二(土)にオープンキャンパスを開催した。今年、天候に恵まれない日もあったが、高校生や保護者、学校・協会関係者など多くの方が参加した結果、昨年の動員を上回る結果が出た。



当日のオープンキャンパスでは、二〇一〇年度の入試概要説明をはじめ、先輩からの受験アドバイス、新宿セミナーによる入試対策講座など、入学試験に関する様々な情報をそれぞれの立場で詳しく説明をしたり、自らの体験談を参加者の前で発表したりした。



また、各学科では、教員や数多くの学生ボランティアが模擬授業を行い、体験入学では疑似体験コーナーや、在学生による学生生活・受験相談など、趣向を凝らしたイベントが催された。参加者は、日頃触れることが出来ない器具の使い方や、自分自身の健康管理についての疑問を学生に問ひかけ、学生も日頃の学習成果を参加者に丁寧に分かりやすく伝えていた。(学務課 今井清健)

海外保健福祉事情

一〇月一八日(日)十三時より、潮風祭の催しの一つとして、今年度海外保健福祉事情・海外研修参加者による研修報告会が行われた。

海外保健福祉事情は毎年前期に開講している講義であり、学生は事前講義を受けた後、海外研修を受け、現地の医療・福祉機関で現地スタッフの指導の下、各



うにするのが普通だが、このように文化の違いによって、検査室の構造も違ってくることに衝撃を受けた。また現地の学生との交流もあり、様々な良い刺激を沢山受け、四日間という短い研修だったが、大変貴重な体験となった。

施設利用者のケアやスタッフの手伝いを通じて、医療・福祉の現場に触れ国際感覚を涵養する。今年、二三名の学生が履修し、うち一八名が夏休みを利用して中国・ベトナム・オーストラリアの三カ国にて研修を受けた(残り五名は来年一月にハワイにて研修を受ける予定)。報告会は、一般の来場者も聴講する中

今年の潮風祭テーマは「出航」

一〇月一七・一八日の両日、小田原キャンパスにて、初めて全学年が揃ったキャンパスで、全員が一丸となって新たなスタートを切る、という思いを込めたテーマである。学科・学年の垣根を越え、潮風祭実行委員のメンバーを軸に、全学年が一丸となって行われた今回の潮風祭は、例年以上の盛り上がりを見せた。

屋台で食べ物や飲み物を売る学生、イベントを催し、学生のみならず一般の方をも楽しませた学生、学科紹介で日頃の成果を発表する学生。楽しみ方や、一般の方のもてなし方は担当によってそれぞれであったが、全員が笑顔で絶やせずに潮風祭へ参加していた。

また、例年好評の熱海病院に出展している「血液サラサラ選手権」も学生の催事に負けないぐらいの盛り上がりを見せた。



終了後、学生達の表情には疲れの色が見えたが、それ以上に達成感が満ち溢れていたように見え、始まる前よりも、凛々しく見えた。(学務課 下田岳史)

行われた。潮風祭の準備等、多忙なスケジュールにも係らず、この日のために計画を進めてきた学生達は、若干緊張した様子ながらも、時に笑いを交え、時に真剣に、海外で学び体験した事を発表していた。学生達にはこの研修で学び体験した事を活かして、未来へと歩むことを願う。(学務課 加納正基)

Arpeggioを奏でるように 輝け天神の星たち



福岡看護学部准教授 下舞紀美代

ほのかに香る金木犀の風に、灯火親しむ季節の心地よさを感じている。福岡看護学部の一期生たちは、一〇一人分の個性が弾ける音が聴こえてきそうな兵ぞろいである。学生委員の私は、足並みをそろえようと頑張ってはみるが、その元氣について行けるはずもない。それなのに、いきなり学生が一枚の紙切れを持ってきた。福岡シティーマラソンの応募用紙である。

誘いについてのついでに、まい参加を決意した。七月中旬の暑い最中、歩くことから始め、一〇月四日、学生と5kmを走った。学生は驚くほど速く、小田学部長はカメラを持参し路上で待機していたが、写真に取まったのは私と一人の学生だけであった。走り終わった後の学生の額に流れる汗は、荒立つ呼吸苦に耐えながらも完走した者にしかない輝きを放っていた。秋の快晴にある太陽に負けない天神の星たち、君たちがいたから私は走れた」と思わず呟いた。

その天神の星たちは、今、連翔祭(大祭)の準備に追われている。こうして原稿を書いている私の研究室にも、個性弾ける複数の音が駆け抜けていく。様子を見に行こうか、いや何も手出ししてはいけない、そうだ、チョコレートがあったこれを差し入れに行こう、ジュースも買うか? 長居は禁物、口を出したくなる」と思った時にはもうエレベータに乗っていた。学生ラウンジでは数名の学生が準備に追われていた。私



翌一八日には福岡看護学部を訪問。福岡看護学部の学生はバンド演奏や演舞を披露し、視察団を歓迎しました。

の飼っているメダカの「テン」と「ジン」が学生の話を聴いている。入学して半年なのによく頑張っているよね、テン。最後までやり通せるかな、ジン。動かずだんまりか。

学生の「ありがとうございました」という声に背中を押され見守りに徹する。これもまた辛抱がある。まだ、個性はぶつかり合い、不協和音の色合いを隠せない。しかし、個性という音に耳を傾け、心を啓くその日を私は信じている。

四年後には、この天神の星たちがアルペジオを奏でるように、一〇〇の豊かな個性の和音となり、人の心を癒し灯をともし日を夢み、わが人生に悔いなしと胸を張る。



第一回オープンキャンパス開催

四月の開学以降の目の回るような忙しさもようやく落ち着きをみせ始めた七月、広報の一大イベント「オープンキャンパス」の開催となりました。

もちろん天神キャンパスでオープンキャンパスを行うのも初めてのこと、何を行えばいいのか、どのくらい参加者がいるのか、すべて手探りの状況の中で準備を進めました。しかし、オープンキャンパスの前日、福岡県は未曾有の集中豪雨に見舞われ、天神



参加者の皆様に感謝申し上げます。夏休み中、しかも大風の翌日にも関わらず駆けつけて手伝いをしてくれた十数名の在校生たちの働きに驚かされました。彼らにとっても初めてのオープンキャンパスであったにも関わらず、積極的に来場の高校生と交流してくれたおかげで、第一回オープンキャンパスはなかなかの好評を得ることができました。以降、二回目のオープンキャンパスでも在校生コナーは大人気。さらに、裏方の仕事も手伝ってくれたり、依頼したこと以外の仕事にも積極的に参加してくれました。

在校生の生き生きとした姿を見てもうかがえるオープンキャンパス、初回からそんなオープンキャンパスを実現してくれた彼らに次回も期待したいと思います。(事務局 藤田祐子)

産学官の連携はじまる!

大川福祉家具研究開発協議会発足



福岡リハビリテーション学部は、大川家具工業会、大川市と共同で「大川福祉家具研究開発協議会(以下「協議会」)を発足させました。「家具の街」

である大川市と医療福祉の総合大学である国際医療福祉大学らしいコラボレーションです。日本経済新聞(九月一五日付)でも取り上げられるなど、注目を集めています。協議会は、高齢者や障害者が自立して生活を送れるような自立支援型の家具の共同開発を目指します。また、これらに精通した専門家である家具コンシェルジュ(案内人)の養成も行う予定です。

大川市木工まつりで展示

協議会はこのたび、今年で六〇回目の開催となる「家具、建具の生産日本」のまち大川市最大のイベント「大川木工まつり」(一〇月一〇日(土)〜一二日(月)開催)に出展しました。同協議会のブースでは、アシストレグを取り外すことで作業や休憩にも兼用できる椅子や、畳の部屋でも配管せず使用できる給排水付きの「ミニ手洗い」など、高齢者や障害者が自立して生活しや

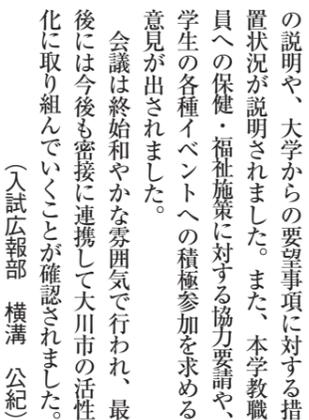


すい自立支援型の家具が多数展示され、会場内を行き交う人々の足を止めていました。「家具の町、大川」の再生に向け、前進です。(入試広報部 望月 秀樹)

元培科技大学視察団来学

七月一七日(金)、一八日(土)の二日間、本学と交流協定関係にある元培科技大学の視察団(団長、蔡雅賢副学長、教職員一三名、学生二〇名)が福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部を訪れました。元培科技大学は台湾の医療専門職を中心に様々な専門職を養成する大学です。視察団は一七日、福岡リハビリテーション学部を訪れ、学内施設の見学や交歓会に参加しました。

交歓会では、本学学生や教職員と元培大学の視察団のみなさんがグループに別れ、英語を使って、自己紹介をしたり、大学生活や大学での勉強内容について情報交換を行いました。両学の学生は最初、ぎこちない姿が目立ちましたが、交歓会が終わる頃には肩を組んで話している様子も見られるなど、非常に打ち解けた雰囲気でした。



関する要望が伝えられました。大川市からは、市の様々な事業についての説明や、大学からの要望事項に対する措置状況が説明されました。また、本学教職員への保健・福祉施策に対する協力要請や、学生の各種イベントへの積極参加を求める意見が出されました。会議は終始和やかな雰囲気で行われ、最後には今後も密接に連携して大川市の活性化に取り組んでいくことが確認されました。(入試広報部 横溝 公紀)



今年も好評、市民公開講座 地域のみなさまを対象に医療、福祉、健康に関わる様々な事柄について解説する「市民公開講座」。本年度も八月一日より全四回にわたり開講されました。今年度は、前半を高齢者の方々に関する問題、後半を子どもの発育に関わる問題について取り上げました。八月一日、「大川市民夏まつり」と目を同じくして開催された第一回の講座は、理学療法学科中原雅美講師が「高齢者の転倒予防について―転ばぬ先の予防の知識―」と題して講演しました。中原講師は高齢者の身体的な特徴や転倒や骨折を招くメカニズムについてわかりやすく解説した後、転倒を予防するための体操を、実演を交えて紹介しました。八月二九日には、福岡看護学部の波止千恵講師が講演。「認知症」を正しく理解してみんなで支えよう」をテーマに、認知症の予防や、周囲の協力を得て、認知症と上手に付き合いつながりながら生活していく方法について解説しました。いずれの講座も好評で、終了後のアンケートでは、「体操の資料をコピーして、母にやってみようと思います(四〇代女性)」、「今後は(認知症の)母親との会話を大切にしたい」と思っています。今日はありがとうございました。今日ありがとうございました(四〇代女性)といった声が寄せられました。

「買って使おう、医療福祉サービ ス」開催

新学科、医療福祉・マネジメント学科主
 催による「買って使おう、医療福祉サービ
 ス」が十月八日よ
 り八回シリーズで始まりまし

新学科の特徴は「医療」、「福祉」、「マネ
 ジメント」の融合。今回の講座はこの新学
 科の特色を活かし、複雑な医療福祉サービ
 スの実際を分かりやすく解説。医療福祉サ
 ービスに関わる制度・お金の仕組みや、多
 様な医療福祉専門職の存在とその「活用方
 法」を知ってもらい、医療福祉サービスを
 賢く使う知識を身につけて頂くことが今回
 の講座の趣旨でした。

第一回の北島政樹学長の講義では、最先
 端のがん治療における医学技術の進歩を学
 んだ上で、良い病院とは技術や実績を持っ
 ているだけではなく、患者中心の医療を展
 開している病院であることを学びました。第
 二回の講義では、丸木学科長、小林副学科
 長より、医療福祉
 サービスを利用す
 る際に使える制度
 や第三者評価等の
 医療福祉情報の利
 用法などが話さ
 れ、様々な情報に
 振り回されるので
 はなく、医療・福
 祉制度の仕組みを
 よく知り、私たち



が主体的にそれらを活用して賢く使うこと
 が重要であると学びました。
 この原稿執筆時点では、まだ二回の講座
 が終わった所ですが、二回とも盛況をいた
 だくことができました。その後の講座に参
 加された皆さんも含め、ご来場誠にありが
 とございました。

医療福祉・マネジメント学科 による「医療経営戦略セミナー」 開催

医療福祉・マネジメント学科の主催する
 「医療経営戦略セミナー」が一月一〇日
 (土)、大田原キャンパスで開催された。本
 セミナーは、二〇〇三年より毎年、医療経
 営管理学科が学科教員の研究成果を地域社
 会と医療福祉施設関係者に還元する目的で
 開催していたが、本年は統合・新設された
 医療福祉・マネジメント学科が継承、開催
 した。

第十三回目となった今回のセミナーは同
 学科・高橋泰教授による「基礎から学ぶD
 PC…調整係数廃止の影響とそれ以降の展
 望」と題した講演会で、栃木県内や茨城県
 福島県をはじめとする近県の医療福祉施設
 の事務部門スタッフら約三十名が会場に詰
 めかけた。

高橋教授は、講演で、実践教材をもとに
 DPCの基本的な知識について紹介した後
 廃止が決まっている調整係数の将来像につ
 いて、医療制度改革や民主党への政権交代
 が及ぼす影響とともに詳しく解説した。そ
 のうえで、DPC病院は、「急性期医療は出
 来高払い廃止（オール包括払い導入）」とい
 うシナリオを含めた経営戦略を検討するこ
 とが必要であると述べた。

詰めかけた受講者
 からは、「今後は、地
 域における医療ネッ
 トワークの一員とい
 う役割と自覚がより
 一層必要であること
 が分かった」といっ
 た感想が聞かれた。
 (医療福祉・マネジメント学科助教 中田健吾)



三年実習報告会

快晴の十月十日(土)、三年実習報告会が
 開催された。医療経営管理学科の三年生は、
 夏休みの四週間、医療福祉施設管理実習と
 して病院で医事業務の実習を行う。本学科
 では唯一の、現場から学ぶ貴重な体験とな
 っている。実習報告会は三年生の成長の証
 であり、実習の成果を実習病院長の指導者
 の方々にフィードバックし、さらに後輩の
 二年生に対する情報提供を目的として毎年
 秋に実施している。

当日は実習病院長の方をお招きし、三
 十六施設各十五分の口演発表を行った。ス
 ーツ姿で発表する三年生たち、熱心にメモ
 を取りながら聞き入る二年生たち、総勢二
 百名の盛大なイベントになった。会場では
 座長の教員とゲストを交えての鋭い質疑応
 答が繰り返され、廊下の片隅には原稿を
 読んで練習する三年生の姿があり、学会発
 表のような心地よい緊張感があった。

実習病院長のゲストからは数々の励ましの言
 葉と助言をいただき、来年度の再会を約束し
 て、今年度の実習報告会は無事終了した。
 (医療福祉・マネジメント学科 加藤尚子)

施設インフォメーション

News: Affiliated Facilities

附属病院

国際医療福祉大学病院

当院では九月
 二十七日(日)に
 防災委員会主催
 で栃木県防災館
 (宇都宮市)を
 訪問し見学会を
 実施しました。
 災害について体
 験しながら学
 習できる施設
 で、一五名(職
 員二三名、家族
 二名)の参加者
 が貴重な体験を
 してきました。実施内容に
 ついてお知らせします。



【内容】

- 一、概要説明
 防災館解説員の方より本施設の概要につ
 いてジョークを交えながら詳しく伺った。
- 二、ビデオ視聴
 阪神大震災に被災した方の体験談がつづ
 られていた。災害は本当に忘れたところに
 やって来るものであると感じた。
- 三、煙迷路体験
 煙が充満し迷路のようになってしまつ室
 内から誘導灯に従って脱出体験をした。
 煙が濃く前が全く見えないなか避難する
 という貴重な体験ができた。



いかと思います。
 貴重な体験がで
 き、いろいろな考
 えさせられた一日
 でした。来年度以
 降も何回か見学会
 を企画し、職員
 の防災意識を高めて
 いきたいと思いま
 す。
 (防災委員会)

四、地震体験

震度7までの地震を体験した。装置には
 関東大震災のときの揺れ方がプログラム
 されているそうで、揺れの継続時間が大
 変長く、震災の大きな被害にも納得でき
 た。

五、大風体験

風速三〇メートルまでの風を体験でき、
 斜めでも立っていられるくらいの風を体
 験した。これに雨も加わつたら大変なこ
 とだと感じた。

六、大雨体験

貸し出された合羽を身に着けて豪雨を体
 験した。万全の防備をしても濡れてしま
 うくらいの激しさであった。

六、館内展示見学

栃木の災害や地震、火災、風水害を解説
 するパネルや、防災グッズが展示してあ
 り、平成一〇年の那須水害についての資
 料も多くあった。私たちの地元で大きな
 水害があったことが改めて思い出された。
 体験は非常にリアルでした。また楽しい
 ものでもありません。とても勉強になり、体
 験学習とはいえないこの体験の有無が本
 当の災害に遭遇したとき、対応の差になるではな
 いかと思います。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

当院では十月一日付けで、自前の救急
 車の運用を開始致しました。

救急車本体につきましては、七月の下
 旬に納車されました。運用のまでの二か
 月半の間、救急外来運営委員会を中心に
 車内設備の充足と規程の作成、運用講習
 会を実施いたしました。

特に、救急車運用講習については、院
 内をあげて救急車についての理解を深め
 ようということで、三日間に分けて実施
 いたしました。総勢一〇〇名超の職員
 に参加いただきました。

初めて救急車に触れる職員が多く、講
 師を務めていただいた救急外来運営委員
 会委員長の一瀬副院長の説明を真剣に聞
 いて理解を深めていました。特に、サイ
 レンのスイッチを押したときは、あの乾
 いた勘高い音に一同とても興奮しました。
 また、ストレッチャー昇降の練習も実
 施しました。テレビドラマ等では、一見
 簡単そうに見えますが、実際ストレッチ



出動ではサイレンを鳴らして患者
 様を国福病院へと搬送しました。
 地域も当院の救急車には期待を
 寄せており、当院としてもその期
 待にこたえるべく、引続き救急車
 運用講習のみ受講者に、再度講習
 を開くなど、一人でも多くの職員
 が、救急車の運用に携わることが
 できるよう、努力していきたいと
 思っています。
 (総務課)

サークル紹介

薬学部サークル VIOILA

薬学部薬学科 三年 杉山大樹
 VIOILAは薬学部の学生のサークルで、
 同じ薬剤師を志す学生が学年を問わず活動
 を通じて交流や教養を深めることを目的と
 しています。活動は月に二回程で、活動内
 容は学生同士のコミュニケーションを図る
 企画や、先生方をお呼びして親交を深めたり、
 薬局を見学したりなど、学生が興味のある
 活動を企画しています。またオープン
 キャンパスのお手伝いや他校の薬学生団体
 サークルと交流したりと、活動は多岐にわ
 たっています。

VIOILAは、薬学生主体で構成された
 日本唯一の全国組織「薬学生の集い(薬つ
 ど)」に団体加盟しています。「薬つど」は
 現在VIOILAの他にも私大の薬学生を中
 心に十数の団体が加盟しており、意見交換
 や交友関係も広く、とても良い経験ので
 ける場です。これまで、「薬つど」を通じて、
 他校の学生と交流を深めるとともに、国際
 活動を行っている方や、製薬会社や化粧品
 会社の研究者の方のお話などを聞くことが
 できました。また、服薬指導の模擬演習、生
 薬の抽出や国立感染症研究所見学など、普
 段体験できないような経験をすることもで
 きました。



VIOILAの今後の活動としては、製薬
 工場見学や薬局見学、また先生方との食
 事会などの案が現在挙がっています。また、「薬
 つど」の二大イベントの一つである年会在
 二月に行われます。他校の薬学生と交流
 したい方や、薬剤師と
 しての未来、医療につ
 いてなど、貴重なお話
 や学生同士の活発な意
 見交換などもあるかと
 思いますので、薬学部
 の学生で興味のある方
 は、是非参加してみ
 てはいかがでしょうか。



ヤーに人間が乗
 ると、とても重
 く、自由が利き
 ません。ストレ
 ッチャーを救急
 車に乗せる際
 は、何度も勢い
 をつけてはやり
 直しの連続。救
 急車からストレッチャーを降ろす際も、
 勢い余って乗っている人を落とすように
 なるなど、現実には厳しいものでした。そ
 んな中でも、触れているうちに慣れてき
 たようで、スムーズな取扱いをされてい
 る職員も多々ありました。

講習会を経て、実際の救急車出動は十
 月二日の午後。当院患者様を国福病院へ
 転院させるための出動となりました。あ
 らかじめ、出動することは承知していた
 もの、不安も大きく、病棟の看護師の方
 たちにも応援いただき、何とか、救急
 車に患者様を乗せて、国福病院に向けて
 発車しました。この日は緊急を要する患
 者様ではなかったのですが、サイレンなし
 で搬送しましたが、この四日後、二回目の



山王メディカルセンター開設
一〇月一三日、約二年間の工事期間を経て、青山一丁目駅前の旧山王メディカルプラザ跡地に新しく山王メディカルセンターを開設いたしました。
八階建の建物は、落ち着いた茶色の外観で、エントランス部分には二階まで吹き抜けの大きな窓があり、そこからの明るい陽射しが天井のシャンデリア、大理石の床、木目調の壁面に注がれており、また室内は各所に絵画を設置し、絨毯や壁紙にも配慮するなど、病院にいることを忘れるような落ち着いた雰囲気と温かみを演出しています。

この新しく誕生した山王メディカルセンターでは、人間ドック・健診、女性腫瘍・婦人科疾患、人工透析、血管外科、一般内科を中心として運営し、これまでにない新しい概念の医療施設としてスタートいたしました。従来の高度な医療機器に加え、これまで山王病院にはなかったPET・CT、3DテスラMRI、デジタルマンモグラフィなど、最新の医療機器を導入し、人間ドック受診者の健康を

抱えた状況をいち早くキャッチし、適切な生活指導、時には予防的治療を開始して皆様の健康をお守りする、予防医療を主体とする時代に入っています。当院は今後、充実したアメニティと最新の設備、最先端で専門性の高い診断・診療能力を持った医療機関として皆様から信頼されるよう、医師、看護師、コメディカル、事務職を含め、職員一丸となって努力する所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
山王メディカルセンター院長 天野 隆弘

お守りすることにも、女性腫瘍センター・婦人科、人工透析センターを設置しています。また一階の一般外来診療では、人間ドック受診者のフォローはもちろんです。一般外来患者様の医療相談や、診療に対応できる外来診察室も完備しております。徒歩三分の場所に位置する山王病院はもとより、グループ関連施設で東京都認定がん診療病院でもある国際医療福祉大学三田病院とも連携を密にしながら、疾患を引き起こすリスクに適切に対処できる最新の医療をご提供いたします。

開設に先立ち、一〇月九日には病院見学会と、ホテルニューオータニにおいて開院記念祝賀会が盛大に開催され、参加者の皆様方から数多くの期待の声寄せられました。

医学は今や、病気になる前のリスクを抱えた状況をいち早くキャッチし、適切な生活指導、時には予防的治療を開始して皆様の健康をお守りする、予防医療を主体とする時代に入っています。当院は今後、充実したアメニティと最新の設備、最先端で専門性の高い診断・診療能力を持った医療機関として皆様から信頼されるよう、医師、看護師、コメディカル、事務職を含め、職員一丸となって努力する所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
山王メディカルセンター院長 天野 隆弘



臨床医学研究センター(東京地区)

山王病院



「BLS講習会」では、実技とテストにより、一次救急のスキルを学んでいます。また、院内感染対策委員会や医療安全管理委員会などの委員会が主催して、全職員を対象とした新型インフルエンザ勉強会や医療安全講習会を通して最新の情報を提供しています。その他にも、看護部や事務部など、部署ごとにも研修があります。事務部では先日、マナー研修のインス

「BLS講習会」では、実技とテストにより、一次救急のスキルを学んでいます。また、院内感染対策委員会や医療安全管理委員会などの委員会が主催して、全職員を対象とした新型インフルエンザ勉強会や医療安全講習会を通して最新の情報を提供しています。その他にも、看護部や事務部など、部署ごとにも研修があります。事務部では先日、マナー研修のインス

「BLS講習会」では、実技とテストにより、一次救急のスキルを学んでいます。また、院内感染対策委員会や医療安全管理委員会などの委員会が主催して、全職員を対象とした新型インフルエンザ勉強会や医療安全講習会を通して最新の情報を提供しています。その他にも、看護部や事務部など、部署ごとにも研修があります。事務部では先日、マナー研修のインス

臨床医学研究センター(千葉地区)

化学療法研究所附属病院

このように化研病院では、部署や委員会が主体となり、様々な研修や講習会を開いています。これからのいろいろな取り組みをして、個々のスキルアップに繋がるよう、努力してまいります。
(総務人事課 吉田亜希子)

この研修は、「自分を大切にし、人を活かすコミュニケーション」コーティングを部下育成に活用するために」というテーマで、新人看護師や後輩看護師への指導、支援という関わりの中で、相手のやる気を引き出すために必要な態度や具体的なスキルを身につけることを目的に実施されました。

この研修は、「自分を大切にし、人を活かすコミュニケーション」コーティングを部下育成に活用するために」というテーマで、新人看護師や後輩看護師への指導、支援という関わりの中で、相手のやる気を引き出すために必要な態度や具体的なスキルを身につけることを目的に実施されました。



附属病院

国際医療福祉大学三田病院

院内研修会



七月二九日、学術図書委員会主催による第二〇回院内研修会が開催されました。本年度第一回にあたり、六月に病院長に就任した小川聡院長が「心房細動診療の最近のトピックス」をテーマに講演を行いました。身近に知り得る例を上げての分かりやすいお話に、九〇名を超える職員が熱心に聴講しました。

今後職員の間心の深いテーマで、研修会を開催していく予定です。

心肺蘇生訓練(BLS) 研修会

医療安全対策室は、当院の医療安全に関する本年度の重点目標の一つとして、「突発的に起こる心肺停止に対し、職員がいつでも迅速かつ的確に対処できるよう、全職員の心肺蘇生技術習得」を決定しました。これを受けて五月から隔週でスタートしたのが「BLS研



研修会を行う理由は、それぞれ皆さんの救命処置の知識・やり方を統一し、一つにしようという思いがあります。緊急時、偶然居合わせた人の処置のしかたが違うと混乱を招き、一分一秒というとても大切な時間を無駄にしてしまうことがあるからです。いざという時、同じ職場の誰とでもどこでもすぐに対応できるようにし、それぞれの身近な人、大切な家族を守るようになって欲しい。今後は、研修会に留まらず、あらゆる現場での処置等のシミュレーションやトレーニングができる環境を作ってきたいと思っています。
(総務企画課)

今回、全職員に向けてBLS研修を行う理由は、それぞれ皆さんの救命処置の知識・やり方を統一し、一つにしようという思いがあります。緊急時、偶然居合わせた人の処置のしかたが違うと混乱を招き、一分一秒というとても大切な時間を無駄にしてしまうことがあるからです。いざという時、同じ職場の誰とでもどこでもすぐに対応できるようにし、それぞれの身近な人、大切な家族を守るようになって欲しい。今後は、研修会に留まらず、あらゆる現場での処置等のシミュレーションやトレーニングができる環境を作ってきたいと思っています。
(総務企画課)



附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

【第四一回熱海病院院内学術懇話会】

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、各部署間の情報交換や各職員の技術レベルの向上に役立てております。
九月二十五日(金)
に第四一回目の院内学術懇話会が開催され、約九〇名の職員の参加により活発な意見交換が行なわれました。
演題は左記の通りです。



臨検検討会(司会:北村創 病理学教授)
・米国感染症学会(IDSA)カンジダ症ガイドライン二〇〇九
重久秀史(大日本住友製薬株式会社)
転倒予防を目的とした「お鈴様プロジェクト」の行方
石切山千恵、松下洋子、武田七重(五階病棟)
POCT機器 iSTAT1(CH E8+)有用性と性能評価
加藤和彦、畠山令、塚田真一、進藤達也、メ谷直人(臨床検査部)

死亡症例検討会(司会:重政朝彦 内科教授)
・末期腎・心不全の七〇歳患者例
担当医:栗山学(泌尿器科教授)

【講演一】
標準予防策・経路別予防策について
三田病院 ICN 児玉看護師
【講演二】
正しいPPEの着脱の実際
小田原保健医療学部 看護学科 操教授、渡邊講師
【講演三】
正しい手指衛生について
モレオン株式会社 (総務課 篠原拓真)

【講演一】標準予防策・経路別予防策について
三田病院 ICN 児玉看護師
【講演二】正しいPPEの着脱の実際
小田原保健医療学部 看護学科 操教授、渡邊講師
【講演三】正しい手指衛生について
モレオン株式会社 (総務課 篠原拓真)



高木病院

乳がんの撲滅と検診の早期受診を啓蒙・推進するために世界規模で行われるピンクリボンキャンペーン。十月はがん検診強化月間として全国でもさまざまなイベントが行われ、第三日曜日は「ジャパン・マンモグラフィサンデー」と称して全国各地でもマンモグラフィ検査ができる環境づくりへの取り組みが行われました。当院もこの活動に賛同して乳がん検診を開催、視触診+マンモグラフィ検査(マンモグラフィ未経験者のみ)を限定四〇名、検診費用一五〇〇円で行いました。応募は四〇名の募集に対し八〇名を超え、乳がん検診への意識の高さがうかがえました。当日は予防医学センターのフロアをピンクリボンでかざり、保健指導やがん予防のための食育レシビ、マンモグラフィ検査の説明などのコーナーを設置、乳がんに関するさまざまな資料も掲示しました。受診者の皆さんははじめ緊張で不安な顔でしたが、保健指導や検査説明を受けるうちに緊張がほぐれたようで、マンモグラフィ検査では「思ったよりも痛くなかった」と笑顔がこぼれる方もいました。受診後のアンケートでは「日曜日に検診できたこと」や低価格、医師・放射線技師をはじめスタッフ全員が女性



医師はじめ全員女性のスタッフで対応しました

性であったこと」などが好評で「がんに対する意識が変わった、これからも定期的に乳がん検診を受診したい」と答えていただきました。今回は、保健指導を通して「乳がんとは自分で見つけることができるがん」である早期発見で治すことのできるがんであることを説明し、実際に検査を体験してその必要性を感じ、定期的な検診受診をお勧めできたのではないかと思います。当院でも予防医学センターで乳がん検診を受け付けており、外来でも外科担当医による精密検査(マンモグラフィ検査・エコー検査・MRI検査・PET検査など)および治療(切除手術・化学療法・放射線治療など)を行っています。

現在日本女性の二〇人に一人が乳がんと言われるほど高い罹患率にもかかわらず、乳がん検診の受診率は数パーセントにすぎません。この現状の背景には、乳がんへの知識不足や乳がん検診の実施体制の問題などがあります。

今回ジャパン・マンモグラフィサンデーのキャンペーンを通して、乳がんへの知識を深め、自分自身の問題として意識し、検診への一歩を踏み出すきっかけになったのではないかと思います。

(放射線室 宮内 和)



乳がん触診モデルで乳がんのしこりを確認



保健師による保健指導

福岡山王病院

福岡山王病院は、五月の開院から約半年を経過しました。開院以来、「質の高い医療と快適な療養環境を備えた先進的な病院」という当病院のコンセプトを市民の方々にまず知っていただくことを第一の目標として病院職員総ぐるみで取り組んでいます。認知度が次第に高まっている。手ごたえが感じられます。

「認知度アップ」の一つとして取り組んでいるのが病院内の福岡山王ホールで開催している「健康講座」です。当病院の特徴ある診療科目ごとの医師が講師を務めて第一回目の七月四日から十月までに毎月一〜二回のペースで計五回開催しました。福岡都市圏の新聞折り込みチラシやホームページで講座案内をしています。参加者は毎回二百名前後を数えています。そのうち毎回五十名前後の方が診察券発行を希望され、外来受診者増につながっています。

講座と院内見学(三日目まで)をセットにしたことにより、参加者の方々に直接、ホテル仕様の病室など病院施設を見ていただけること、講演後に健康相談コーナーを設け、優秀な医師団に気軽に相談のつてもらえることが好評の要因のよう



毎回好評の健康講座

「新しい病院の紹介」から「当病院の医療内容」に踏み込んだ報道に変わってきたことも、「優秀な医師が揃った質の高い病院」として浸透している一助になっていることがうかがえます。

診療・治療についても実績を伸ばしています。例えばハートリズムセンターでの不整脈治療、カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)の施術件数は開院から五月(九月三十日)で一〇〇例に達しました。産婦人科の内視鏡手術、リハビリテーションセンター、人間ドックなどの各部門も順調に推移しています。

診療内容については、さらに充実を図っており医師数も増員され、十月に不妊症治療のリプロダクションセンターが開設されたのははじめ、血液透析・腎臓内科外来も始まりました。このほか、発達障がいリハビリ、肥満外来、アンチエイジングカウンセリングなども順次、実施する予定です。(広報部長 林田 好弘)



カテーテルアブレーション100例達成

「情緒障害児短期治療施設 那須こどもの家」 那須こどもの家

起工式

九月三〇日、平成二二年春の開設に向けて大田原キャンパス内に建設される「情緒障害児短期治療施設 那須こどもの家」の起工式が行われました。

この施設は、虐待や家庭・学校等での人間関係が原因で、集団生活などに困難をきたしている子どもたちの生活指導および心理治療を目的として、厚生労働省が全国の都道府県に設置を計画しているもので、栃木県内の初の施設として、社会福祉法人邦友会が運営に当たることになったものです。「特別養護老人ホームおたわら風花苑」に隣接する土地に三階建ての治療棟と市立の小中学校の分校と



奥の建物がおたわら風花苑



大田原神社宮司による起工式の様子

なる平屋建ての教育棟が建設されます。当日は、北島政樹学長、谷修一邦友会副理事長をはじめ、栃木県や大田原市、地元自治会の方々、工事関係者などが多数参加され、厳かに工事の無事を祈願しました。

国際医療福祉リハビリテーションセンターの下泉秀夫センター長は、「この施設は本学の校内にできるので、医療福祉・マネジメント学科などで児童福祉の勉強をする学生や、大学院で臨床心理士の勉強をする学生にとって、良い臨床実習の場になると思います。また、多くの学生にボランティアとして子どもたちに触れ合ってもらうことが、子どもたちの成長につながり、また、学生たちが広い視野を持つことにもつながると思います」と期待を寄せています。

(東京事務所 広報室)

書評

ひかりの足跡

〇ハンセン病・精神障害とわが師が友

大谷藤郎

国際医療福祉大学の建学の基に大谷藤郎総長の「共に生きる社会」という理念があることはこの大学の学生・教職員ならば誰もが知っている。病気や障害をもつ人もまたない人も、お互いに人間としての権利を平等に認め合い、助け合って生きる社会の実現が究極の願いである。常々著者は語っている。本書は、この思想の背景にある厚生省現役時代から抱き続けたハンセン病、精神障害その他難病などの重い病気や障害をもつ人々に対するステイグマの存在とそれに立ち向かう著者の強い信念が縷々語られている。特に、著者の思想形成に直接影響をもたらした人々のひかり輝く存在と業績を、本書の題名である「ひかりの足跡」として残し、伝えておきたいとの強い思いが心に響く。

著者が生涯にわたる師と崇める小笠原登・秀実先生兄弟は、嫌われ恐れられたハンセン病患者を差別することなく平等に接し、「社会にはその人からでなければ学べないことがある」と著者に言わしめるほどの人たちなのである。「共に生きる社会」の理念の下に学ぶ学生たちであれば、本書を読み、著者の思想とその背景に心を近づけてほしい。

(杉原素子)

第13回 私のおすすめ本

医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 学部長・学科長 丸木一成

「34歳でがんはないよね?」

読売新聞社会保障部記者 本田麻由美 エビデンス社、一五七五円

若くして乳がん患者となり、再発転移の脅威と闘う本田記者の「揺れる心の軌跡」が、包み隠さずつづられている。タイトルは乳がん告知を受け、思わず夫に吐いた言葉だが、当初、このタイトルに抵抗を感じたという。最初の手術から五年、多くの患者、専門家を取材した筆者には、三四歳のがんは珍しくないことを熟知していただけに「私の愚かさを露呈するだけ」と思ったそうだ。

編集者から「ベテラン患者になっちゃだめ。まさか私がこの年でと誰でも感じてるもの。初心忘るべからず」と説得され、死の不安に苛まれながら取材し、求めたい医療や社会の姿を考えて記事を書き続ける自らへの戒めとして受け入れたという。

本書は、この筆者の思いが全編に貫かれている。信頼できる乳がん専門医との出会い。局所再発でその主治医に不信感を抱きそうになるが、他の専門医から医療の限界を教えられる。卵巣転移が疑われ、紹介先で受けた検査で、依頼医にあってた画像と封印された手紙を託される。手元にあるながら中身が見られないもどかしさ。患者の不安は考慮されず、「医療情報は誰のものか」と疑問を持つ。柳田邦男氏の「闘病は情報戦の時代。正しい情報を得た上で、治療法の選択、生き方を考える」の言葉は、治療法の選択に悩む多くのがん患者にとって励ましとなるだろう。患者の心を知る上で、医療関係者にもお勧めしたい。



黒岩祐治氏が国際医療福祉大学大学院教授に着任

元フジテレビのキャスターで解説委員の黒岩祐治氏が、十月一日より国際医療福祉大学大学院の教授（医療福祉ジャーナリズム分野）に着任されました。

黒岩教授は約一五年前キャスターを務めた「新報道二〇〇一」において救急医療キヤンペーンを展開し、救急救命士の誕生に大きく貢献される一方、ご自身の経験から著書『末期ガンなのにステキを食べ、苦しまずに逝った父』を発表。東洋医学と西洋医学を併用した治療が父親に奇跡的な回復をもたらした経験から、両医学の融合に関心を注いでいます。

また、医療福祉総合研究所（医療福祉チャンネル774）の副社長として、新番組の開発にもあたられます。

（東京事務所 広報室）



「七年前より客員教授だった」縁もあり、このたび二九年半のフジテレビ社員生活に区切りをつけて、本格的に、この大学の一員としてこれまでの経験を生かしていくことになりました。大学院の医療福祉ジャーナリズム分野と医療福祉チャンネル774を融合させ、大学院生に実際に番組制作を体験していただくというグループならではの授業を行ない、双方の活性化を図ります。」

（黒岩祐治教授より）

医療福祉チャンネル774



「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、スカパー!の774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学大学院乃木坂スクール ～医療福祉に関心があり、最新の医療事情を学びたい方に～

第一線で活躍する人の新たな挑戦

医療と福祉の連携 新たな挑戦



コーディネーター 水巻中正氏（本学大学院教授）：左

超高齢化社会を迎え、医療と福祉（介護）の連携はますます重要になっています。在宅医療、訪問介護、ターミナルケアなどその形態は多様ですが、そこから新たな地域コミュニティも芽生えています。第一線で活躍する人や団体リーダーが、様々な挑戦を紹介します。

●医療福祉チャンネル774を見るには

- スカパー!の774チャンネルでご視聴いただけます。
- 視聴料・・・月額2,100円（他、スカパー!加入料2,940円（初回のみ）・スカパー!月額基本料410円がかかります）
- 法人契約・・・5,250円

- IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

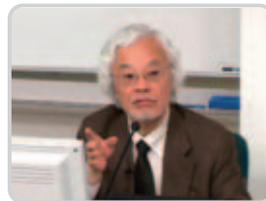
●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774（株）医療福祉総合研究所 お客さま係
Eメール info@iryofukushi.com HP www.iryofukushi.com/
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー 4階

ケアマネジャーと介護の質の向上をめざして

ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座 ～理論と実例研究～

利用者の調査では、ケアマネジャーの満足度は徐々に低下しつつあり、他方、特別養護老人ホームなどでの身体拘束なども摘発され、老人保健施設の在宅復帰率もきわめて低いといえましょう。平成18年度の介護保険見直しを受け、自立支援について根本から学び直します。



コーディネーター 竹内孝仁氏（本学大学院教授）

◆774視聴者特典 無料配信中!

医療福祉専門チャンネル動画配信サイト
医療福祉eチャンネル
www.ch774.com/



広報誌 IUHW 79号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔福岡天神キャンパス〕
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕広報室
東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：大田原キャンパス 写真部他
編集：東京事務所広報室

©国際医療福祉大学 2009 Printed in Japan 禁無断転載・複写

お知らせ

IUHW Hot News

D・E・F棟の外壁塗装工事が終了!

新たな外壁が後期授業開始と同時に披露目となりました。薄いピンクとこげ茶、緑に彩られた校舎は、秋の空に一層映え、学生達も気持ち新たに授業にさらに身が入ることでしょう。

総務課 河口

